

教育長 殿

宮城県伊具高等学校
校長 高橋 光弘

令和2年度 学校評価報告書

1 本年度の重点目標

(1)開かれた学校づくりと特色ある学校づくりの推進と広報活動の充実 (2)主体的・対話的で深い学びにつながる授業力の向上と基礎学力の定着、ICT機器の利活用 (3)基本的な生活習慣やマナーの定着指導と活気ある学校づくりの推進 (4)希望進路100%達成に向けた組織的な取組 (5)清掃指導の徹底と心身の健康管理の推進 (6)4系列の特長ある教育活動の推進と地域連携の推進 (7)創立100周年記念事業の成功にむけて組織的な取組推進

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	① 基礎学力の向上	B	長期休業期間中も学習習慣が継続するよう課題を課し取り組ませた。また、朝のHR前に「雁歌TIME」を10分間設け、基礎学力向上を目標に取り組んでいる。	B	B
	② 授業力の向上	B	iPadや電子黒板の導入によりICTの活用した授業が増えている。今後も授業内容や指導方法の見直しをはかりつつ、「わかる授業」を推進したい。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	・コロナ禍での学習指導に対して、現状と対策を教えてください。 ・ICT機器を活用した授業で生徒個々の学力向上を期待します。 ・新型コロナウイルス感染症でクラスター発生とならなかったが、どのような対策をとりましたか。				
生徒指導	① 挨拶・身だしなみの徹底	B	挨拶は定着しているが、服装規定が守られていない生徒が常態化しつつある。教員の指導に差も見られるので共通認識で指導を徹底する。	B	B
	② 安心・安全な学校づくり	B	特別指導は激減したが、教員に対する暴言などが見られた。日頃からの教員同士の情報共有と段階的指導の徹底を行う。	B	B
	③ 活気のある学校づくり	B	学校行事は、生徒実行委員との打ち合わせを時間をかけ行い生徒主体の行事となった。地域や対外の行事にも積極的に取り組む成果をあげる環境となった。部活動は、少数ながらまとまりのある活動ができる部活動が増加した。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	・仮設住宅地になった野球グラウンドの今後の対策はどのようになっていますか。 ・特別指導が激減した理由は何ですか。 ・生徒指導が難しいことは理解できます。段階的に長期的な指導を望みます。				
進路指導	① 教科・年次・担任との連携によるきめ細かい進路指導	B	今年度は就職・進学ともに日程の変更があったが、年次との連携により、対応することができた。就職試験・大学入学者選抜ではオンラインでの実施もあり、次年度に向けての対策を考えていかなければならない。	B	B
	② 生徒個々の学力の定着指導および適性・実力の把握	B	今年度は例年に比べて模試の受験が多かったが、受験するだけにとどまり、学力アップまでにはつながらなかった。基礎力診断テストの分析会は振り返りの指導に際して大いに参考になる内容だった。	B	B
	③ 進路行事の充実	B	進路オリエンテーション・企業見学等が中止となったほか、インターンシップも延期となり、2・1年次は今後の進路選択をする上での体験学習が不足しているのではと心配される。しかし、諸団体の協力により、ほかの行事は実施でき、生徒にとって貴重な機会となった。	B	B
	④ 保護者への適時・的確な進路情報の提供	B	今年度は進路通信をホームページで閲覧できるようにしたが、学校評価アンケートでの進路情報の提供についての評価が低く対応を考えていかなければならない。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	・コロナ禍で変更、延期、中止と障害があった中で、改善対応に苦労されたと思います。卒業生全員の希望進路が達成できることを期待します。				

4 系列 の特 長あ る教 育活 動	① 農学系列の教育活動の推進	B	栽培技術は実習を通して学ぶことができた。また販売実習を通してコミュニケーション能力の向上に努めた。地域連携では町の花壇等の整備を行い「明るいまちづくり」に貢献できた。しかし農業クラブ各種大会がすべて中止になり生徒の発表の場がなかったのが残念であった。	B	A
	② 機械系列の教育活動の推進	A	ICT機器を活用し、意欲の向上、理解の深化に努めた。また、資格試験の合格率向上にも繋がった。さらに、仮設住宅へちりとり、棚の贈呈、小学生に対する出前授業を通して地域との関わりの大切さを学んだ。5S講習、QC講習、熟練技能者講習で、技術の向上と社会人基礎力を身につけた。これらの学びを就職、進学に繋げることができた。機械科の特長を生かした各事業に今後も発展的に取り組んでいきたい。	A	A
	② 情報（商業）系列の教育活動の推進	B	例年実施している地域行事への参加はできなかったが、地域企業と協力した「丸森お弁当プロジェクト」を実施することにより、普段の授業で得た知識技術を地域社会の中で生かし、実践していくことができたことは大きな収穫であり、今後もこうした方策に積極的に取り組んでいきたいと考えている。	B	A
	③ 福祉系列の教育活動の推進	B	介護施設での実習は出来なかったものの外部講師による介護体験学習、家庭クラブの県大会出場、食物調理技術検定や保育技術検定など多くの生徒が積極的に活動することができた。今後も活躍出来る機会を増やしていきたい。	B	A
学校関係者評価委員会における意見	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本台風による農場施設の復旧状況はどのようになっていますか。 ・どの系列の学習も地域にとって魅力ある活動を取り入れており、活気が見られました。 ・目標達成されていると思います。学校の自己評価Bは低いのではないのでしょうか。 				
地 域 学 校 づ く り	① 地域への学校情報発信の充実	A	学校通信やホームページを利用しての学校情報発信ができ、本校教育活動を理解していただくことができた。	A	A
	② 地域と連携した教育活動の推進	A	丸森町地域おこし協力隊との連携をはじめとして、各系列でも地域と連携した教育活動ができた。	A	A
	③ P T A 活動の充実と同窓会との連携	B	100周年記念式典は、参加者を限定しながらも同窓会及び P T A の方々と協力して実施できた。 P T A 活動に関しては、新型コロナウイルスの状況を鑑み活動が不十分となった。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和40年代に地区ごとのPTAを実施していました。地区の実態を知るのに効果があったと思いますので、検討してみてもどうですか。 ・生徒募集用の学校案内は内容が分かりやすく良いと思いました。 ・情報発信手段にSNSを活用してはどうですか。 				

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 部活動を活性化させる	県の方針に基づき、生徒にとって魅力的で活発な部活動となるように計画をたてる。今後も部活動を推進することによって、学校全体の活動を活性化させる。
② P T A 活動を充実させる	P T A の方々と連携することにより、生徒の活動をサポートし、学校全体として盛り上げていきたい。
③ 本校活動の啓発活動を推進し、入学者を増やす	地域の生徒が地元の高校に入り将来につなげられるような啓発活動を積極的に実践したり、1日体験入学で高校生に説明させる工夫をすることにより入学者を増やす。